



浜家連 ニュース 8月号

第192号

平成28(2016)年8月1日発行

○発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816 FAX045(548)4836

映画「みんなの学校」を見て 副理事長 大羽更明

「みんなの学校」は大阪市の大空小学校取材した関西テレビ制作のドキュメンタリー。この学校は普通の公立小学校だが、特別支援を必要とする子どもの数が圧倒的に多いという。「すべての子供に居場所がある学校を作る」という理念で、よその学校では厄介者扱いされてきた子どもを受け容れているからだ。

学校に来てひとりぼっちの子、授業中に声を上げて走りまわると教室を飛び出してしまふ子、つい人に暴力をふるってしまう子……。そのような子どもみんな同じ教室で勉強する。担任の先生だけでは手が足りないのでクラスを開放して、他クラスの担任や支援教育チーム、保護者も力を合わせる、そして周りの子どもたちも共に。「自分とは違う友達」がいる、ありのままを受け容れるのが当たり前。こんな学校生活を体験した子どもたちは、成長して精神障害者の隣人に特別な目を向けるようなことはないし、障害があることを恥ずかしいとは思わないだろうと期待したい。

浜家連ではいま、学校教育の中で精神障害について適切な学習が行われるように要望し、横浜市健康福祉局と教育委員会に協力して「障害理解のための教育現場向けの資料作成」の作業に取り組んでいる。また、「災害時の要援護者名簿」から除外されていた精神障害者にも必要な人には支援が届くよう、名簿への掲載をすることを話合っている。どちらも、誰もが精神障害者になるかもしれない、障害者がいるのは当たり前

ということを受け容れる。それには、当事者と家族の内なる偏見を克服しなければ実現しない。

しかし、「やればできる (Si può fare) 」ものだというのを、「みんなの学校」から学べると感じた。機会があれば、上映会にご参加なさるようお薦めしたい。

ここまで書いてから、南区にある横浜市立中村特別支援学校を見学する機会をえた。肢体不自由と知的障害を合わせもつ重度の障害児のために特化し、隣接する中村小学校と併設し、医療的ケアのある小・中・高等学校である。

「ともに学ぶ、ともに生きる」という理念の下、中村小学校と校門を一つにし、校舎の中も通路を自由に行き来できる。訪問したとき、ちょうど中村小学校の生徒が音楽の授業で交流して歌を唄う場面に出会った。子どもたちは文字通り互いに手をふれあい明るく楽しそうにしていた。

「できないことに注目するのではなく、いいところを伸ばす。同年齢の子どうしの方が分かりあえる。交流により互いに社会貢献しあっている。」と吉原校長は説明してくれた。横浜にも「みんなの学校」があったのだ。小さいときから障害のある子もない子も一緒にいるのが当たり前という環境で育った子ども達の将来が楽しみだ。

浜家連の動き

横浜市議員団・横浜市健康福祉局へ要望書提出及び懇談が行われています。

6月9日より、横浜市議員団・横浜市健康福祉局と要望書の提出及び懇談を行っています。これまで自民

党、公明党、民進党、共産党、健康福祉局と行いました。あと、無所属・ネットワークを残すだけとなりました。これらの模様は浜家連ニュース9月号で詳しく報告いたします。

浜家連研修会・家族学習会担当者研修会が開催されました。

◆第1回 浜家連研修会 「傾聴について考える」◆

日時 6月23日(木) 13:50~16:30
場所 横浜ラポール2階 大会議室
講師 石丸昌彦先生 (放送大学教授 精神科医 NPO法人CMCC理事)
参加者 122名



～「傾聴について考える」～という講演を聞いて 横山 芳江 (いずみ会)

最近、「傾聴」という言葉を目にしたたり、耳にすることがよくあります。大事そうなことはわかるけど難しそう……。

そこで石丸先生の講演を聞いて改めて考えてみました

もし自分に苦しい事や辛い事があって誰かに聞いてもらいたいと思った時、『苦しかった』と言えば『苦しかったね…』、『つらかった』と言えば『つらかったね…』と、自分の気持ちを相手が受けとめて、わかってくれたなら心がほっとするのではないのでしょうか。この人なら黙って話を聴いてくれる、寄り添って聴いてくれる、わかってくれる、そういう聴き方をしてくれる相手がいたらきっと心が癒されますね。

傾聴は気軽なおしゃべりとは違い、聴く側の心構えが重要に思えます。



石丸先生は相手の言葉に耳を傾け、寄り添い、その人の感情を評価(正しい、間違っている)せずにそのまま受け止めよう、聞き手が『まっさらな状態』でいることが大切だと話されていました。

そうされることによって話す側には必要な変化が自然に湧いてくるそうです。傾聴が力を発揮するのです。誰にでもできるように思えますが、そこには訓練と高い技術が必要だと感じました。

今の私にはカウンセラーのような傾聴はできませんが、生きづらさを感じている心の病を持った我が子やご家族には講演を聴いた者として、傾聴することを心掛けるよう努力していかなければと考えさせられました。今回の講演は「傾聴」のほんの入り口に過ぎず、やはり傾聴は難しくそして奥が深いというのが印象です。そのうえ先生は関係性が近い(親子など)ほど傾聴は難しいと話されました。この言葉にやけに納得?安心?したのは私だけでしょうか。しかし、傾聴という言葉を目と心の中に存在させながら話を聴くのであれば、自分にとっても相手にとっても大きな成長になるのではないのでしょうか。

タイトル以上に深く考えさせられた講演でした。

◆家族学習会担当者研修会◆

日時 7月1日(金) 10:00~16:30
場所 横浜ラポール2階 大会議室
参加者 28名



家族学習会担当者研修会 in 横浜を終えて 柏木 彰 (みなと会)

7月1日に今年「家族による家族学習会」の開催を予定している6家族会から26名のご家族と2名の見学

者（健康福祉局障害福祉課加藤様・鶴見区生活支援センター相談員香川様）をお迎えして終日行われました。

参加された「のぞみ」（鶴見区）、「わかば会」（神奈川区）、「あじさいの会」（瀬谷区）、「あいの会」（港南区）の皆さまほんとうにお疲れさまでした。

とくに6時間にわたる長丁場の研修会にもかかわらず支援者の立場の加藤様、香川様に最後まで家族の思いに熱心に耳を傾けていただいたのには頭が下がりました。

当日の様子は平塚から参加された「湘南あゆみ会」の鶴殿様と鶴見区生活支援センターの香川さんに寄稿していただいた感想文から読み取って頂ければ幸いです。

担当者研修会に参加して

私たち湘南あゆみ会メンバーは浜家連主催の担当者研修会に、6名で参加しました。

当日の担当者研修会のプログラムの中でも、ゆで卵理論の講義が非常にポイントをおさえ、的確に説明されていたと思います。過去何回も聞いていた内容でしたが、今回の説明が一番分かり易く、それに例題をやることにより確実に理解が深まったと思います。

また家族学習会のデモ及びグループワークでは過去5年間私はリーダーまたはコリーダーばかりを務めていた関係で、今回初めて参加者役をワクワクしながら務めました。リーダー役の人、コリーダー役の人

「家族学習会」担当者研修会に参加して

センターでもご家族からの相談を受けることは多々あります。相談内容は様々ですが、今日にいたるまでのご苦勞をいつも実感していました。そんな中でこのような会に参加することができ、面談の中では知ることのできない、発症当時のご家族の本音や今までの経験、ご本人への思いなどを知ることが出来ました。

私には幼い娘がいます。無邪気に笑う姿を見ていると、「この子が精神の病気になるはずがない」と、根拠のない感情を抱きます。きっと参加されていたご家族の皆さんもそう思いながら一生懸命子育てをされてきて、発症し病名を告げられた時は、「なぜわが子が」という気持ちになられたことでしょう。自分を責めたり、何が悪かったのか、と原因を探り続けた方もおられるかもしれません。私も将来、娘が病気を発症して苦しんでいる姿を見たとしたら、おそらく同じ気

湘南あゆみ会 鶴殿 満

はぶっつけ本番、何の事前打ち合わせもなしで臨んでいました。戸惑いながらも、なんとかその責務を果たそうと、一生懸命の様子がうかがわれました。ここで一番大切なことは、リーダー及びコリーダーのチームワークです。それに事前打ち合わせがいかに重要であるかということです。私は参加者役をやったことで、その2つのことが家族学習会を成功させる上で、車の両輪であるということを理解することが出来ました。担当者研修会を企画実施された浜家連の皆さま有難うございました。

鶴見区生活支援センター相談員 香川 静衣羅

持ちになるでしょう。家族の一員としての関わりをするのか、それとも支援者目線での関わりになるのか、共に病気に立ち向かっていけるのか…。専門職でありながら、正直、全く自信がありません。そんなことを、改めて考える機会となりました。

自分も家族を持ったことにより、「家族」という一番近い存在だからこそ気が付ける部分、逆に近いが故に気が付けない部分があると実感しました。難しいことだとは思いますが、そのような部分を共に考えていきたいと思っています。

研修中に流れた映像の中で「すごい世界の中で、本人たちは生きているんだ。それをそのまま認めたいと思った」という発言がありましたが、この言葉が、ご家族のご本人に対する想いの全てであるような気がしました。貴重なお時間を、ありがとうございました。

抗精神病薬「ゼプリオン」の薬害について

- ・6月22日の朝日新聞に以下の記事が掲載されました。

統合失調症薬使用 85人死亡

統合失調症治療薬「ゼプリオン」を使用していた85人が死亡していたと、NPO法人「地域精神保健福祉



機構」が21日、発表した。2013年11月の発売から今年2月までの国への副作用報告を分析したという。因果関係は不明で、使用患者の全例調査をすべ

きだと厚生労働省に求めた。この薬はヤンセンファーマ（東京都）が製造販売する注射薬。

◇「地域精神保健福祉機構（コンボ）」が出した厚生労働省への要望事項◇

【1】ゼプリオンは他の精神病薬に比べて、死亡者数が突出して多いのはなぜなのか明らかにして下さい。

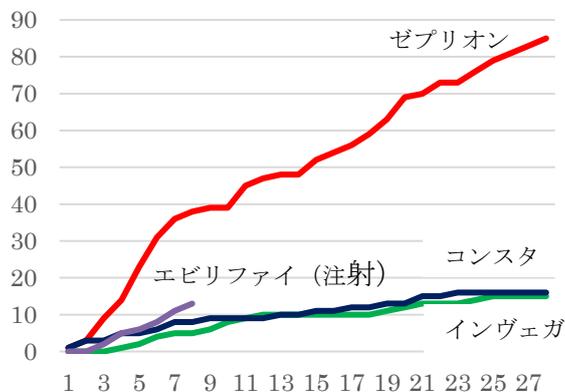
【2】ゼプリオンの使用全例を調査して下さい。

【3】類似の成分であるインヴェガとコンスタ及び、エビリファイと同じ抗精神病薬の注射剤と比較してこのような差が出るのはなぜなのか明らかにしてください。

【4】ゼプリオン発売後のほぼ半年後、2014年4月17日に21人の死亡症例に基づき安全性速報（ブルーレター）が発出されました。その後1年半の死亡数は63人となっており、発売以来約2年間で約85人の方なくなっています。ブルーレターが発出されているにもかかわらず、現在に至るまで改善が見られないのはなぜなのか明らかにして下さい。

【5】これ以上、死亡者が他剤と比較して著しく増えないように、日本精神衛生学会等の専門家と共に使用している当事者や利害関係のない第三者を含めた外部委員会の設置、使用状態を把握するための使用者全員の調査等、当該企業に対して少しでも死亡者数を減らせるような対策を講じるよう指導して頂き、且つ適切な行政としての対策を取って下さい。

4剤死亡累計比較



◆イベントのお知らせ◆

§ 28年度 第3回浜家連研修会 §

《発達障害について》

日時：9月16日（金） 午後 1：30～午後4：00（開場午後1：00）

場所：横浜ラポール2階 大会議室

講師 浮貝 明典 先生（グリーンフォレストグループホーム部門 管理者）

定員：100名（先着順）

§ 第22回 市民メンタルヘルス講座 §

「心の転換期のメンタルヘルス」

日時：平成28年10月15日（土）＝1日目＝

～思春期のメンタルヘルス～

講師 渡辺 久子 先生（渡辺病院・児童精神科医）

平成28年10月29日（土）＝2日目＝

～60歳からのメンタルヘルス～

講師 岩城 秀夫 先生（横浜市総合保健医療センター センター長）

時間 両日とも午後1：30～午後4：00（開場午後1：00）

場所：横浜市健康福祉総合センター4階ホール

定員：300名（事前申込みで予約制）

申し込み締切り 9月30日必着



【編集後記】先日の参議院選挙は与党の圧勝で終わりました。どのような政権であれ「障害者にやさしい政権であってほしい」と願ってやみません。

・浜家連の夏休み **8月15日(月)～8月19日(金)** 電話相談は通常通り実施します。

(事務局 中居)